
農村の活性化は馬鈴薯で

国際馬鈴しょ研究所 (CIP)

Tom Walker

Charles Crissman

1. 貧困撲滅にむけての政府の取り組み

この30年にわたり、中国は終始一貫全国規模で貧困を一掃するための計画を樹立し、実行に移している、唯一の開発途上国であり、国際機関の協力を得て、とくに農村・農業部門に重点が置かれ、成功を収めつつある。

対貧困計画は1978年に立てられたが、同時にそれが成功をおさめるために必須の経済改革にも着手している。そして1986年にはとくに発展が遅れている中央部・南西部に特別な基金を供与するなどの政策をとり、大規模に実施されるようになった。次いで1994年からは農村の貧困に結びついている各種の問題に焦点をあて、これを軽減するための7年間にわたる計画が実施された。

この計画において最初に着手されたのは、もっとも貧しい人々、貧しい所帯にむけて食糧と衣類を与えて救済することであり、とくに対象となった恵まれない人たちには、少数民族、女性、さまざまな理由で独り身となった者たちが含まれている。

貧しく、遅れている地域に向けて基金を供与することにより、不便な場所への道路・鉄道の建設、飲料水・電気の供給、電話の設置など生活基盤の整備のほか、新たな農地の開拓、営農、健康管理、教育の普及などの基本的なサービスの提供がはかられている。

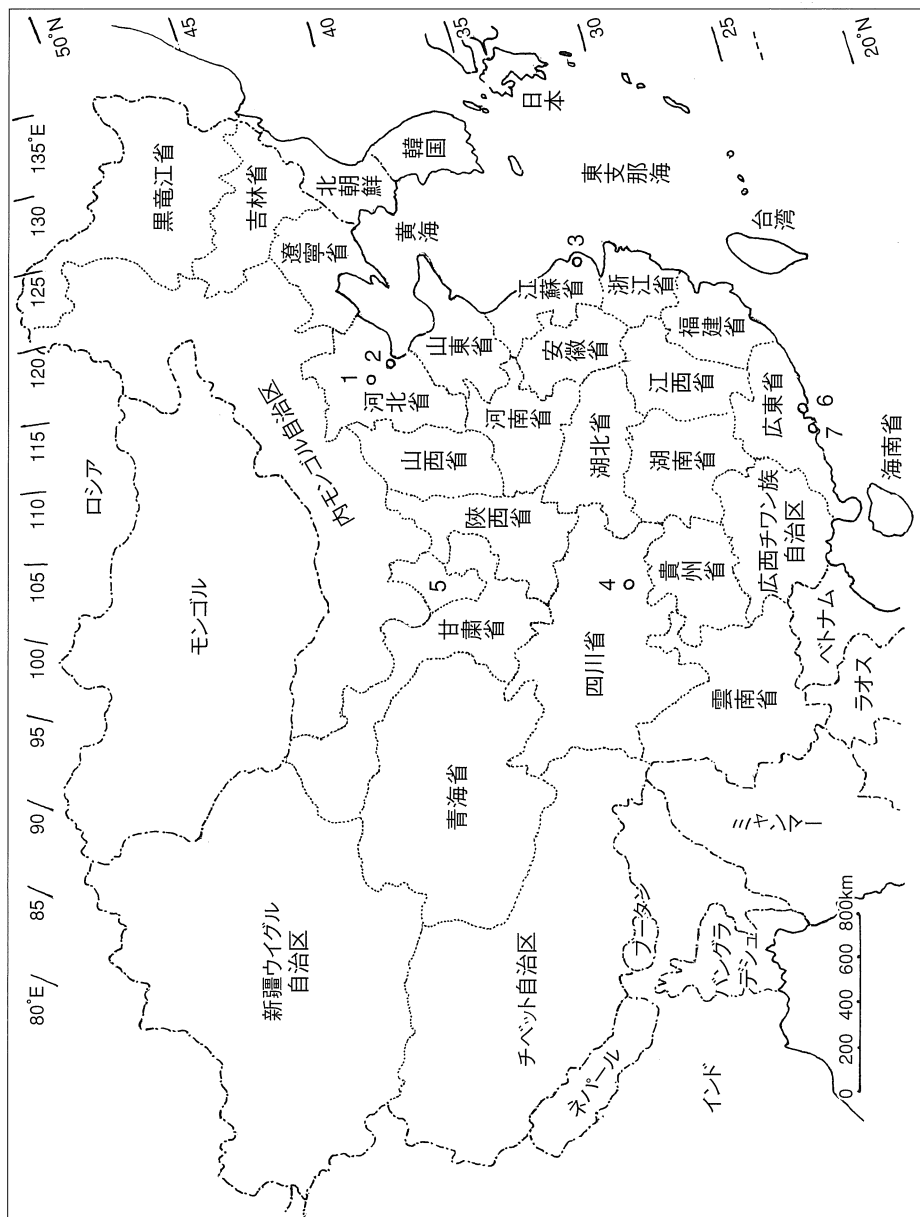
農業については、豊かでない省・地域に対し、政府は生産・加工の能力を高めることと、これに関連する研究の充実に力を入れている。農民たちは借入金を受けて作物生産・養鶏・水耕栽培など新規事業化をはかり、また市場を開拓するための各種情報入手に関する知識の吸収にもつとめている。

1978年には、ほんとうに貧しいと思われていた農村の人々の割合は30%であったが、2000年を過ぎてからは3%以下に減少している。

2. 沈滞する農村

中国経済に関して、メディアは年間10%にも達する沿海部の好景気に沸く都市に視点を集める傾向があり、これが、ほかの地域も同じように豊かになったのであろう、との錯覚にとらわれてしまうが、奥地の農村地帯の発展は遙かに遅く、その実態が報道されることはあまりない。しかし現在では、この離れた地域の6億の人たちは豊かでないのである。その多くは国の南西部の、人口密度の高い重慶直轄市・貴州・四川・雲南省の農民であって、中国での貧困をなくすための政策を実施するに際して、とくに注意を払わなければならない。

一見矛盾するようであるが、これら地域で



中国の4市23省5自治区2特別行政区

1. 北京市 2. 天津市 3. 上海市 4. 重慶市
5. 寧夏回族自治区 6. ホンコン特別行政区 7. マカオ特別行政区

豊かでなく飢えにさらされている人たちは農民なのである。彼らの多くはひとり暮らしの女性、または老夫婦であり、ときには少数の教養ある人たちも含まれるが、0.25ヘクタール以下の零細な農地で作物栽培、家畜飼養を行っている。この人たちは農畜産物により得られる僅かな収入と、夫・子供たちからの送金によって暮らしているが、その夫・子供たちは仕事を探して都市に出稼ぎに行っているのである。

3. 南西諸省での馬鈴薯生産状況

貧困から脱却しつつあるとはいえ、南西部諸省の農村は他地域と比べ決して豊かとはいえないが、農村経済を活性化させるために有効な作物の導入・普及が考えられていて、その一つに馬鈴薯があげられている。これらの地域では、3つの馬鈴薯作付型がみられるが、その一つは平地であって冬に植え付けられ、価額がもっとも高い春に近くの都市に出荷される。次いでやや高い丘陵地帯では、主食として栽培され、また現金収入を得る作物ともなっていて、春と初秋の2回植え付けされる。さらに積雪のある高山の麓の地帯では、馬鈴薯は短い夏の間に生育が可能な唯一の作物である。そして前二者の地帯では人口が過密であり、高地は極度に辺鄙であって、住人も少ない。

馬鈴薯は多くの場合トウモロコシと帯状に耕作されているが、馬鈴薯の単作も行われており、この二者は重要な食用作物となっている。主食となる作物生産を増やすことは、貧しさから脱け出し、地域の経済を上向きにするために、もっとも手取り早く、また重要な施策なのである。

農家にとって大切な馬鈴薯ではあるが、長い間他地域との交流がかならずしも頻繁でなかったために、南西地域で栽培されてきた品種はただ一種であったところに問題がある。この地域では、1950年代に当時の東ドイツの品種Miraが作られはじめて以来、ずっとこの品種しか栽培されず、生産者はそれが完全なものと思いこみ、作り続けてきたのである。この品種は北ヨーロッパ原産であるので、気象条件の厳しい南西諸省の山地によく適応できるため、農民には歓迎され、中国以外でも広く栽培され、それぞれの国の農家経済を支えてきている。厳しい条件下での生産性がよいばかりでなく、品質も優れ、食味がよく、いろいろの調理に適し、貯蔵性にもすぐれているので、とくに長い冬の間の食糧として貴重である。

4. 必要な新品種導入

しかし、馬鈴薯を生産するうえで、ただ一つの品種に依存するのは病虫害発生による減退など、危険性がきわめて高く、現に長い間作り続けられてきたMiraも、近年疫病に対する抵抗力がはなはだ弱まり、いままで普通の年であればヘクタールあたり18～22トン収穫できたものが、僅か6～7トンに減っている。

またウイルス病による被害も年を追う毎に甚だしくなっている。馬鈴薯の生産が安定しないことは、農民たちの食糧安定確保上重大な問題であり、優れた品種の導入が焦眉の急と考えられた。

中国南西部諸省のなかで、雲南省は高原地帯が多く、馬鈴薯栽培の適地にめぐまれているので、同省の研究所・大学では国際研究機

関の協力を仰ぎ、新たに育成された若干の品種を導入し、試験が続けられ、適品種について生産者への普及をはかった。あたかも在来品種が疫病その他の害により十分な生産が挙げられなかった時期であったので、多くの生産者は直ちに新品種を採用し、その栽培面積は急に増え、雲南省内ばかりでなく、近隣の諸省、さらに国境を越えてベトナム、ミャンマーにまでそれらの種イモが流通するに至った。

新品種はいもが大きく、目が浅いなど食用いもとして優れた特性をもっているほか、加工にも適し、これから先生産者・農村をうるおすであろう馬鈴薯加工産業の原料として有望である。そして栽培するうえでは多収で病害抵抗性をもっているため、生産は安定しているが、この地域の営農体系の特殊性ともいふべき間作に向いていることも、普及をはかるうえで重要で、これから先このような特性を持つ品種の開発が望まれる。

5. 期待される産地を目指して

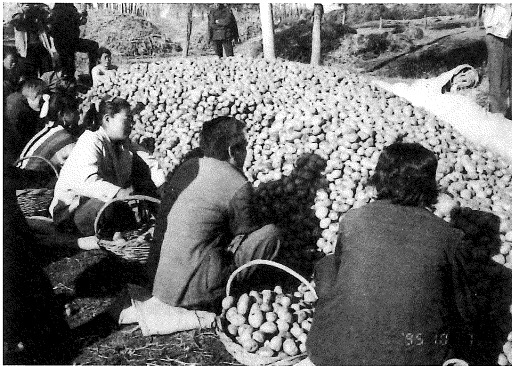
しかし、馬鈴薯の生産を安定させるためには、なんといっても品質の良い種イモを用いることが第一である。その点雲南省は種イモ生産に適した条件を備えているところが多い。しかも周辺の平原地帯で、販売用馬鈴薯の生産者は良質種イモへの要望が強い。雲南省では、この有利な立地条件を活用して、組織的な種イモが生産されるよう財政的援助を行っているが、援助は生産者への融資と技術の導入、たとえば種イモの品質維持、増殖の促進などにかかわる組織培養、生産体制の整備などによっている。

現在のところ雲南以外の省では種イモ生産

事業はそれほど整っていない。省によっては、馬鈴薯産地が広範囲にわたっているため、支援の施策が難しく、また標高が低くて生産適地に恵まれないところもある。

自然的な生産条件のほかに、馬鈴薯栽培者の意識の問題もある。よい種イモを用いることが生産安定の第一条件であるのはわかりきったことではあるものの、たまたまよい種を購入して作ったときに、他のいろいろな障害によって、期待した結果が得られないことも決して少なくはないため、生産者のなかにはまだよい種の価値を認めない者も少なからずおり、そのために種イモ入手のための金を払うことを快しとしない。したがって現在良質種イモを用いているのは、比較的大都市に近い大農場であって、これらの畑と、種を更新しない生産者のそれとでは、その生産性に大きな違いがある。ほかの作物と比べて馬鈴薯は、とにかくにもある程度の収穫は得られるために、農民のなかには植え付けたあと、満足な管理もせずに十分な収穫を求めている者もいるので、意識のうえでもこれらの啓蒙が必要とされる。

いろいろ解決されなければならない問題点はあるが、この地域の高い生産性は良質な種イモの生産・優れた新品種導入と組み合わせられて、遠からざる将来馬鈴薯の生産は大幅に増えるであろうし、それによってこの地域の農民・農村も次第に豊になってゆくであろうと期待される。この地特産の馬鈴薯に対しては、発展いちじるしい上海、香港などの沿海部での需要が強く、またマレーシア、シンガポールほか東南アジア、太平洋地域からも熱い視線が注がれている。



左上：馬鈴薯の選別状況

左中：市場での馬鈴薯（中央）

左下：青空市場での土豆（馬鈴薯、中央）

右上：来客をもてなす席での塩茹馬鈴薯（中央）

右中：同上揚馬鈴薯（中央）

右下：脱水馬鈴薯（ポテトグラニュール）